



「どんな境遇からでも、自立を目指し リスタートできる」

一般社団法人コンパスナビ 理事 高橋 多佳子



1 はじめに

私たち一般社団法人コンパスナビは、埼玉県で社会的養護を巣立った若者たちの支援事業を行なっている。埼玉県内はもちろん、関東圏内、また他県から埼玉に来ている若者など、支援の対象は年々広がっている。

2018 年からは埼玉県「児童養護施設退所者等アフターケア事業」を受託し、「一人立ちにつまずいた若者」の受け皿として、若者たちの自立を支えるために、生活支援・住居支援・就労支援・居場所の運営等、総合的な支援活動を行っている。

2 設立に至った経緯・背景

当法人の母体である(株)インター・アート・コミッティーズは自動車運転免許の合宿型教習所に特化した取次業務を行っている。若いお客様であれば親のクレジットで決済を選ぶ方が多い。就職先が決まって運転免許合宿に申し込んでこられるのだが、カード審査が通らず2週間の免許合宿を断念せざるを得ない事例が2010年頃から出始めた。実の親を頼れないまま社会へスタートする若い人たちをまず応援しようじゃないかとの社長(コンパスナビ初代代表理事皆川充)の思いから、2014年埼玉県の児童養護施設や養育里親庭を巣立つ高校3年生たちに「身

分証明書」となり「職業選択の幅を広げる」運転免許証の取得を支援しようと、企業CSRの一環として、合宿免許費用の全額助成に踏み出した。初年度の助成人数は29名であった。(この活動は全国の社会福祉協議会が窓口となる「上限25万円の資格取得等貸付金創設(要件を満たせば返還免除)」に受け継がれていく。)

3 活動内容

2015年1月に一般社団法人として出発し11年目に入った。

2018年4月に埼玉県から児童養護施設退所者等アフターケア事業を委託されるようになった。(2019年に居場所事業クローバーハウスが加わる)

聞きなれない「社会的養護」「社会的養育」について、まずご説明をさせていただきたい。

貧困、疾患による入院、犯罪による収監、虐待、ネグレクト、さまざまな事情で実の親が養育できなくなった概ね18歳までの子どもが施設や養育里親のもとで養育され、その数は全国で約4万3千人と言われている。しかしながら社会的養護に繋がらないまま虐待や貧困などの厳しい環境下で育つしかなかった若者たち、様々な困難を抱えて大人になろうとする若者たちがその何十倍もいる。親自身の困難さを解決して

「社会的養護」の定義

社会的養護とは

- ・保護者のない児童や、
- ・保護者に監護させることが適当でない児童を、
公的責任で社会的に養育し、保護するとともに、
- ・養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うこと

「こどもの最善の利益のために」
「社会全体でこどもを育む」
の2点を基本理念としています。

いくなかで家庭が再生されその中で育つことが本当は一番望ましいことは言うまでもない。

特に以下①②をおつたえしておきたいと考える。

①社会的養護につながってからも困難は続いていく。

②社会的養護につながることができず困難な環境の中で大人になる人もいる。

私たちの団体に相談に来る若者たちのことを事例から紹介する。

①【事例 A君 26歳】。7年前児童養護施設を巣立ち鉄道関係の会社に就職。寮生活になじめず遅刻欠勤を繰り返し2ヶ月で解雇される。乗客の安全第一の業務のため大きな声で点呼や注意が飛び交う訓練生活。ここで幼少期の罵声怒声がフラッシュバックし固まってしまうことが頻発。施設退所時職員が貯めて持たせてくれていた子ども手当30万円を遊興で1か月で使い切り所持金は1000円以下の状況で出身施設職員に伴われ当法人に相談に来た。

職場見学・体験就労を経てデイケア事業者に就職。さまざまなトラブルはありながらも企業主・職場の先輩たちの辛抱強い育成・企業風土により現在まで定着。おじいちゃんおばあちゃんに頼りにされ戦力となっている。児童養護施設に保護された年齢が13歳。発達障害の特徴が出ていながらも自己受容に至らず職員も多忙で手帳未取得で施設を巣立っている。出身施設と

の関係性がありそして就労先の理解があったからその後の自立に向かっている。

③【事例 Bさん 23歳】。児童相談所（一時保護）につながるも家庭に帰された女子。アル中、ギャンブル依存の母親にアルバイト代まで搾取され兄には暴力を受け、家事を押し付けられヤングケアラー状態の中通信制信制高校で高卒資格取得を目指す。コンパスナビの居場所事業「クローバーハウス」でレポートなどの課題に取り組み、職員や利用者との交流で心を保ち、18歳成人の時を見計らって支援措置を受けながら家庭から脱出。過呼吸痙攣などPTSDにたびたび苦しみながらも働き続けている。苦しい気持ちを奮い立たせる精神力があるから乗り越えてきているが、子ども時代を安心して過ごすことができなかった歪みは身体症状に出る。バランスが崩れると自暴自棄になる危うさがあり慎重かつ継続的な支援が必要である。

4 課題と課題解決への取組み

読んでくださっている方々の中には若い頃仕事が続かず実家に帰ってしばし助けてもらったことがある方もおられると思う。しかし親を頼れぬ若者たちは仕事が続かなければたちまち困窮するのである。

年間80件ほど就労・住まい相談を受けるが、就労できたら解決というわけにはいかず定着を見守らねばならない。朝起きられず無断欠勤してしまう。電話一本いれることにハードルがある。

また、多くの場合金銭管理ができないことに起因する新たなトラブルが発生する。中には彼らの生まれた家庭で祖父母の代から何らかの就労困難な理由があって生活保護受給しており、働く大人のロールモデルを身近で見えていない。

施設養育の中で職員さんは金銭管理教育をし

て送り出すのだが十分とは言い切れず、もらった給与のうち可処分所得がいくらかと計画して使うことができない、家賃や公共料金の滞納が発生する、キャッシュレス決済に頼る、消費者金融に手を出す。もちろん施設を巣立った子どもたちのなかにはきちんと自己管理しながら就学・就業できている者たちもたくさんいることは言うまでもない。

私たちアフターケア事業者に相談に来るのは、仕事も住まいも無くし、通信料金を払えず、所持金1000円以下、友人宅を追い出されてネットカフェやコインランドリーを転々として困窮の中精神疾患を発症する若者たち、その生活再建を支えねば孤独孤立まっしぐらの若者たちである。

私たちは生保窓口など行政機関、精神保健福祉士、社会福祉士、法テラス、医療・妊娠SOSなどと連携しながら生活再建までの伴走をしている。大人の都合で不遇な幼少期を過ごした彼ら、自己責任を問うにはあまりに過酷である。「どうせ自分なんか」と自暴自棄になる。パパ活、特殊詐欺の闇バイトに流れていく若者も出てくる。自傷・薬物依存を起こす若者も多い。

ダメージを受けリカバリまで相当の時間がかかってしまう辛い日々を送ってほしくないの、今施設入所中の子どもたちにお金の管理教育を浸透させたいと切に願っているなか、ゆうちょ財団様の「金融教育」に助成をいただいた。

発達障害の特性のある子どもが多いために自身の傾向性を見つめ衝動的な購買行動をコントロールするコツなど、特性を有する講師ならではの講座を開催することができた。闇バイトに手を出すとどのような目に合うのかと講座を開くことができた。子どもたち・若者たちが危険に出会わない知恵・SOSを発する知恵を身に着ける事業をいっそう広めていきたいと考えている。

自立した社会人になるためにはまず経済的自

立が土台になること、納税者になることを知ってほしい。私たちの支援を必要とする若者たちには、「帰る場所」もなく、「頼れる大人」もないまま、「社会人のひとり」として、社会に飛び込まざるをえなかった者が少なくない。安心できる環境で子ども時代を過ごすことができなかった者ばかりである。過去の経験から心に深く傷を負った彼らは、精神的な不安定さを持っている。少なからず大人に不信感を持ち、誰かを信じることができず、孤独に戦ってきた若者たちにとって、直面する困難を一緒に悩み、ともに解決に向けて歩める「伴走者」でありたい。若者たちがつまずいても何度でもやり直せるように。

そして、持続可能な事業であるために当法人の応援者を増やしていき課題解決の道を拓いていく所存である。

